

## ② 空間づくりや多彩なイベントなど地域コミュニティとの連携【函館蔦屋書店】

### 函館蔦屋書店

- 所在地：函館市石川町85-1
- 開店日：平成25年12月25日
- 営業時間：7:00～25:00
- 敷地面積：30,753㎡
- 店舗面積：8,278㎡
- 延床面積：9,295㎡
- 設置者：SNOW-ASSET 特定目的会社
- 主要店舗：函館蔦屋書店
- 商業団体等への加入状況：石川町会、桔梗町会、はこだて花かみどう
- U R L : <http://www.hakodate-t.com/>

#### 地域コミュニティとの連携のポイント

「函館蔦屋書店」は、新たなコンセプトの空間づくりに加え、積極的な集客事業としての多彩なイベントの開催など、地域コミュニティと連携した取組事例です。

「函館蔦屋書店」は、代官山「蔦屋書店」のコンセプトを引き継ぐ全国展開の1号店

大人の方に向けた生活提案の場として作られた代官山 蔦屋書店のコンセプトを引き継ぎ、「蔦屋書店」を全国展開させていくための1号店として、「函館蔦屋書店」は、平成25年12月にオープンしました。

「蔦屋書店」の全国展開は、「蔦屋書店」という「文化の樹」を日本の地方都市に一本ずつ丁寧に植えていこうという発想です。

樹にとってその土壌との相性が大切のように、全国に新しく作られる「蔦屋書店」は、代官山のコンセプトを引き継ぎ、その街に住む人々にとって居心地のよい場所を目指しています。

「函館蔦屋書店」も、函館のコミュニティ・ハブになることを目指し、3つの「間」を大切にしていきます。

3つの「間」とは、空間・時間・仲間。友だちや家族といった生活の仲間たちと、楽しい時間を過ごすための空間のことを表しています。

#### 取組の背景

「変革の80年代に、文化を手軽に楽しめる店」を目指して昭和58(1983)年大阪府枚方市にTSUTAYAの第1号店である「蔦屋書店枚方店」を開店。

当時レンタル業界はメジャーではなく、TSUTAYAは「いつでも、どこでも、だれでも」

便利に文化を提供する拠点として市場に受け入れられてきました。

しかし、年代が変わっていく中で、同じことを継続することへの疑問や、レンタル業界の競合、メディア供給を可能とするスマートフォンの台頭などの環境下で様々な検討の結果、ネットでは対応できない形を提供する場として、好きな人の集まりを作る「コミュニティスペース」としての空間を提供することになりました。

この空間づくりを大事にし、これを作ることによって、地域の人がつながる「コミュニティタウン」に結びつくものと考えています。これが今の「蔦屋書店」のコンセプトになっています。

メインターゲットを団塊世代と団塊ジュニア世代とし、まずは、書店に来てもらうことが第一と考え、店内に滞在してもらうための仕掛けづくりに力を入れ、キッズスペースの設置や料理教室などのイベント開催を行っています。



また、「蔦屋書店」には、それぞれ専門の生活ジャンルに深い専門知識を持つ「コンシェルジュ」を配置しており、空間づくりに厚みを増しています。「函館蔦屋書店」にも、多くのコンシェルジュ

が在籍しています。

さらに、空間づくりにあたっては、店舗の内外装や飲食店・テナントの配置、商品のレイアウト等、商品の提供にとどまらず、ライフスタイルを提案できる場としての機能を持たせるなど、様々な工夫が施されています。

函館を出店場所を選んだのは、「蔦屋書店」モデルを全国展開していくにあたっては、札幌のような大消費地ではなく、商圏人口 30 万人規模でのノウハウ蓄積が適当と考えたものです。

### 取組の内容

人が集う場づくりとして、最も重視しているのが、地域との繋がりであり、このため、地域との橋渡し役である「コミュニティ担当スタッフ」を配置しています。

「コミュニティ担当スタッフ」が地域に積極的に飛び込み、地域とスタッフとの繋がりが生まれることによって、地域に密着した様々なイベントを展開しています。

イベントの中で、本の読み聞かせについては、地域の要望を「コミュニティ担当スタッフ」が拾い上げて、担当の「コンシェルジュ」に繋げて形にしています。

イベントについては、ご当地タレントの「インスタライブ」のほか、「料理教室」、「作る・書く」、「音楽・映画」、「親子・育てる」、「学ぶ・知る」、「その他」の категорияで多岐にわたって行われていますが、そのほとんどが地域からの声に基づくものとなっています。

イベントでは、市民団体や個人、地元企業など多くの団体が活動しています。



中でも一番の人気はパンづくりのイベントで、当日は長蛇の列になり、売り切れが発生することもあります。

日本語禁止の空間「Late Night Talking」のイベントは英会話を楽しめる場づくりへの需要が高く、既に開催数 66 回を数えます。

また、子供向けの「食育・体験イベント」は人気があり、特にマジックのイベント「トレカ大会」は人気があります。

地域の人たちが気持ちよく過ごせる“居場所”づくりを目指してイベントに取り組んでいますが、書店として本を求めに来る人達にも十分に配慮しており、こだわった空間の雰囲気壊さないように注意しながら、イベントの実施を決めています。

現在、書店が主体で実施している月 1 回のイベントとして、地域在住のアーティスト等がこだわりの作品等を心に残る一冊とともに紹介する「Hakodate MARCHE」があります。

また、「理想の食卓」をコンセプトに様々な料理を提案する「レストラン FUSU」では、「食べる」ことを楽しめるイベントを提案しています。

平成 28 年 7 月は、「デザートビュッフェ」を 4 日間にわたり開催しました。

小中学生の職業体験については、現在 5~6 校受け入れており、要請があれば今後も受け入れる予定です。

### 今後の展開

「函館蔦屋書店」は、「蔦屋書店」のこれからの店舗展開を目指した実験店舗であるとともに、その取組におけるモデル店舗としての顔を持っていることから、新たな取組が着実に実を結び続けていくことが求められているところです。

今後とも「蔦屋書店」としての基本的なコンセプトをより深化させ、「コミュニティスペース」としての空間作りを充実させていくために、「コミュニティイベント」に傾注できる「コミュニティ担当スタッフ」を専任者として配置することで、地域とのつながりをより強固なものとしていき、この地域における「コミュニティ・ハブ」としての役割を果たしていくこととしています。

開店 3 年目を迎えた平成 28 年の年末に向けては、店内の雑貨等を陳列している小部屋を改変するなど、さらに集客力を高めるための仕掛けを行っていくこととしています。